

SSRI

ちょっと一言

Give me a break !

中国が韓国への THAAD 配備に執拗に抵抗する理由

藤岡智和

潜在的に韓国を属国と考える中国は、中国の反対にかかわらず自国内への THAAD 配備を許可した韓国を許せないためとも考えられるが、軍事技術的にも執拗に反対する以下の理由が考えられる。

現在米国の BMDS は ICBM 発射の探知を早期警戒衛星(DSP 衛星など)と早期警戒レーダ(BMEWR)に頼っているが、早期警戒衛星は ICBM の発射噴気を赤外線で探知するため、発射地点の特定はできても弾道を計測することは難しい。 BMEWR は数千^{キロ}で目標を発見することができるものの米本土とかアラスカにあるため、衛星による発射探知とレーダの捕捉には時間的な間隙があり、シームレスに目標の追従を行うことに問題がある。 Aegis 艦の SPY-1 レーダはその間を補うことができるが、常時 ICBM 監視に貼り付けておくのは現実的ではない。 洋上配備型の X 帯レーダ SBX はあるが 1 隻だけで補助的にしか使えない。

このようななかで TPY-2 レーダを持つ THAAD システムを朝鮮半島に置けば、早期警戒衛星の発射情報を受け速やかに目標の捕捉追従が可能で、シームレスに米本土等の BMEWR に引き継ぐことができ、より完璧な早期警戒網を構築することができるようになる。 しかも UHF 帯域を使用している BMEWS や S 帯を使用する Aegis システムの SPY-1 レーダと異なり THAAD の TPY-2 は X 帯を使っているため目標情報の精度が高いため正確な弾道の予測計算が可能で、BMEWR の目標発見を早めることができる。

中国にとっては、このようなレーダが目と鼻の先の朝鮮半島にあると、自国の ICBM 等に対する米国の BMDS の迎撃能力が極めて高くなり、とても許すことができないと見ることができる。(2017 年 11 月 08 日)